



人生100年、土台は健診♡

健 診 部

Health Checkup Center

健やかな明日を創り、健やかな毎日を守る。確かな技術で地域を支えます



Smile & Heart 笑顔と真心を届けます！

薬 剤 部

Department of Pharmacy

<https://omuta-saiseikai.jp>

リハビリテーション部

理学療法士

田中 歩乃伽

Honoka Tanaka



今年度より済生会大牟田病院に入職いたしました、理学療法士の田中と申します。現在は回復期リハビリテーション病棟に勤務しております。患者さま一人ひとりの思いや生活背景を大切に、機能回復だけでなく、その方らしい生活の実現を目標に支援してまいります。まだまだ未熟な点も多くございますが、小さな変化にも気づけるよう丁寧な対応を心がけ、患者さまが安心してリハビリに取り組める環境づくりに努め、日々の業務に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

5階病棟

看護師

前原 有作

Yusaku Maehara



急性期病棟に配属され、無我夢中で駆け抜けた一年でした。当初は戸惑うことも多かったですが、先輩方の手厚いサポートのおかげで着実な成長を実感できています。最近では自身の業務を完結させるだけでなく、周囲に目を向けフォローに回れる余裕も出てきました。四月からは先輩を迎え、私自身も相談を受けられる先輩としてステップアップする時期です。頼れる存在を目指し、これからもチームの一員として精進します。

新入職員のご紹介！

Newcomer

外来診療担当医師一覧表

(2026年3月現在)

【外来受付時間】午前 8:00～11:30 午後 13:00～16:30

【予約受付対応時間】 平日13:00～17:00 (各科外来にて承ります) ※急患、当日予約、キャンセルはこの限りではありません。

診療科		月	火	水	木	金
胃腸内科 放射線科	午前	松岡 賢／松岡 大介	稲吉 康治／田淵 史典	稲吉 康治／船越 禎広	松岡 賢／田淵 史典	稲吉 康治／松岡 賢
	午後	松岡 賢／田淵 史典	松岡 賢／田淵 史典	松岡 賢／田淵 史典	松岡 賢／田淵 史典	松岡 賢／田淵 史典
内科	午前	廣瀬 靖光	久能 由記子	廣瀬 靖光	高田 珠里	児嶋 隆
	午後	永迫 久裕	丸山 健伍	蓮尾 友里	岩屋 智加予	古賀 翠 (～16:00) 岩屋 智加予 (16:00～)
呼吸器内科(禁煙外来)	午前			田尻 守菰	津村 健二	児嶋 隆
	午後			田尻 守菰	津村 健二	
循環器内科	午前	松下 哲也	松下 哲也	松下 哲也	松下 哲也	松下 哲也
	午後			松下 哲也		松下 哲也
内分泌・糖尿病内科	午前	岩屋 智加予／丸山 健伍	古賀 翠 (～12:30) 永迫 久裕	岩屋 智加予	岩屋 智加予／永迫 久裕	古賀 翠／山下 陽
	午後	岩屋 智加予		岩屋 智加予／永迫 久裕	丸山 健伍 (14:00～) 甲状腺細胞診	古賀 翠 (～16:00) フットケア診療
膠原病内科	午前					古賀 珠真
	午後					川本 優美
脳神経内科	午前	菊池 真介	藤本 浩		菊池 真介	
	午後	菊池 真介	菊池 真介			
外科	午前	福田 純也	津福 達二	内田 信治／末吉 晋	福田 純也 唐 宇飛 (第1,3,5)	津福 達二／末吉 晋
	午後					
ペインクリニック	午前		古野 晋堂			
泌尿器科	午前	豊澤 徳行		豊澤 徳行	豊澤 徳行	豊澤 徳行 (予約・再来のみ)
	午後	結石破砕術	手術	結石破砕術・検査	手術	
整形外科 リウマチ科 リハビリテーション科	午前	古畑 友基 上田 淳 竹下 修平	竹下 修平／上田 淳	古畑 友基 野崎 修 (9:00～12:00)	古畑 友基／竹下 修平	上田 淳 石井 英樹 (第1,3,5) 野崎 修 (第2,4)
	午後				【脊椎外来】 前田 和政 (第1,3)(14:30～)	
脳神経外科	午前					江藤 輔聖
婦人科	午前		佐賀大学より (9:00～13:00)	錦本 祥子 (9:00～13:00)	佐賀大学より (9:00～13:00)	錦本 祥子 (9:00～13:00)
	午後					
健診センター	午前	魚住 淳	本廣 賢子	魚住 淳	魚住 淳／本廣 賢子	魚住 淳

「無料低額診療制度」のご案内

医療費でお困りの方はご相談ください。

お問い合わせ先 | 地域医療連携室

【発行】 2026.3.15

社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 福岡県済生会大牟田病院
大牟田市田隈 810 TEL.0944-53-2488(代表)

<https://omuta-saiseikai.jp>



公式Instagram



公式ホームページ

カプセル内視鏡による小腸の画像。細かなひだまで鮮明に映し出されている。カプセルが小腸を通りながら撮影する約5万8千枚の画像をコマ送りして入念に解析する。



古賀院長は大学を卒業後、済生会下関総合病院で外科医として研鑽を積み、消化器内科医が少なかった当時の環境から内視鏡検査を含む消化管の診療全般を担うようになり、それが後の開業スタイルの礎となったこと。そのため院長が特に力を入れているのは消化管に関する高度な検査技術。胃や大腸の内視鏡検査はもちろんのこと、カプセル内視鏡による小腸検査も行っています。「小腸はその長さで複雑な構造から、かつては「暗黒大陸」と呼ばれるほど検査が困難な臓器でした。カプセル内視鏡はその名のとおり、小型カメラを内蔵したカプセルを患者さんに飲み込んでもらって、消化管を通過する間に連続撮影する技術です。小腸の状態を詳細に把握できます」と語る院長。大牟田市内での検査を実施しているのは、現在のところここだけと胸を張ります。

“誤診を防ぐ”使命感と
“少しでも楽に”患者への思い

カプセル内視鏡を導入し
消化管の網羅的な検査を可能に

Profile | こがこうすけ | 1958年大牟田市生まれ。山口大学医学部卒業後、済生会下関総合病院外科に勤務。1997年大牟田市で「こがクリニック」を開業。趣味は釣りやギターの弾き語り。

連携病院の紹介

Hospital-Clinic Collaboration



院長

古賀 浩介 医師

地域に溶け込みながら
確かな信頼を紡ぐ
医師の責任と誇りを胸に。

こがクリニック
大牟田市吉野

気さくな佇まいの古賀院長。クリニックは国道208号線元村交差点からJR新大牟田駅へと向かう県道10号線沿い。

平成9年に開業して以来、長年にわたり地域住民に信頼されてきた「こがクリニック」。

外科医としての実績と経験を生かしながら、地域のかかりつけ医として診療にあたる古賀浩介院長に、その日々を伺いました。

の身になつて、できるだけ不安や苦痛のないように」と、患者への配慮も大切にしているそうです。そうした長年の経験と日々の工夫の積み重ねが確かな腕と自負を作り上げ、患者にとって「こがなら大丈夫」と信頼できる存在となっている。

高度医療機関と地域をつなぎ
育まれる人々との絆



【こがクリニック】
大牟田市吉野1610-1 TEL.0944-50-1800
胃腸内科・外科・肛門外科・
リハビリテーション科

全職員対象のBLS講習会を開催

—救命意識の向上を目指して—

当院では令和7年12月9日から8日間、全職員を対象としたBLS（一次救命処置）講習会を開催しました。令和7年度からは「職種を問わず全員が救命の担い手である」という意識共有のため、最新のシミュレーターを導入し、対象を全職種へ拡大。全職員337名のうち298名が参加しました。研修では、動画学習に加え、実機を用いた胸骨圧迫やAED操作のロールプレイングを実施。事務職を含む多職種が実践的に学び、「いざという時の動きを再確認できた」との声が上がりました。今後も全職員が急変時に迅速かつ的確に対応できる体制づくりに努めてまいります。

（BLS講習会担当：医療安全管理室 看護師／内野晴美）

第78回済生会学会での発表を終えて



令和8年2月15日、第78回済生会学会・令和7年度総会が開催され、当院からは院長ら13名が参加しました。当日は事務、看護、リハビリ、ライフケアの各職種から計6名が登壇。糖尿病教育の実態調査や回復期リハビリテーションにおける退院支援の新機軸、待ち時間対策、TKA術後リハビリプロトコル作成に向けた経時的調査など、多岐にわたる研究成果を発表しました。また、懇親会には秋篠宮文仁親王殿下がご臨席され、大変貴重な機会となりました。学会では診療報酬改定やiPS細胞、AI活用に関する最新知見を聴講し、多くの学びを得ることができました。今回得られた成果を、今後の診療および病院運営の質向上に活かしてまいります。

（リハビリテーション部理学療法士／小山 了）

「第2回済生会フェアin大牟田」を終えて



令和7年11月22日、第2回済生会フェアin大牟田を開催いたしました。昨年は台風に見舞われましたが、今年は晴天に恵まれ、約1,000名の来場者を迎える大盛況となりました。今回のテーマは「医療と福祉の輪を広げよう」です。病院という緊張感のある場所を開放し交流することで、地域の方々により身近に感じていただきたいと考え進めてきました。当日は部署体験やステージイベント、健康測定などの各ブースが賑わい、会場は笑顔と温かい活気に包まれました。「地域の方が安心して集まれる場所」としての姿を示せたことは、大きな成果です。運営を担った実行委員会は、看護師、リハビリ、検査技師、放射線、栄養、事務、地域連携など、普段は接点の少ない多職種で構成されました。一つの目標に向かって得意分野を活かし、部署の垣根を越えて協力し合ったことで、病院全体の一体感がこれまで以上に深まりました。地域の方々からいただいた「楽しかった」「病院でのイベントが嬉しい」という声は大きな励みとなり、地域との繋がりを再確認する貴重な機会となりました。この交流の糧に、来年はさらにパワーアップしたフェアを目指してまいります。実行委員長として、支えてくださった地域の皆様、全職員、そして来場者の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

（第2回済生会フェア実行委員長・リハビリテーション部／領家 健之助）

Social Inclusion Symposium

ソーシャル・インクルージョンシンポジウム

各種イベント
参加無料

4/19日

10:30~15:00

イオンモール大牟田

安心してお越しいただけます

おむつ交換スペース

カムダウンスペース

サポートボランティア

授乳室

身障者用駐車場

TOILET

手話通訳

にほんご

筆談します

イベント参加にあたり事前のご確認や配慮が必要な場合はお気軽にお問い合わせください

一般的な骨折の手術のほか、人工股関節全置手術、人工膝関節全置手術、肩の鏡視下手術、リバーstype人工肩関節置換術など専門性を生かした手術など、さまざまな難しい状況にも柔軟に対応しています。感染を予防するクリーンルームをはじめ、充実した設備と知見をもって、正確で安全な手術に臨んでいます。

技術を磨き、設備を充実し、正確で安全な手術に臨んでいます

患者の回復を目にすることが、多忙な日々の中で大きな支えだと言ふ古畑医師。より多くの手術をこなしたい、でも外来の患者さんも大切に。ときに「効率」と「丁寧のバランスに悩みながらも、今日も真摯に患者と向き合います。

患者の目を見て話す、以前のちよとした会話をカルテに残す、患者の性格や状況に応じて説明の仕方を変える——こうした細やかな積み重ねが温かな信頼関係を育んでいるようです。

患者への説明においても、古畑医師は丁寧さを大切にしています。「なぜこの治療をするのかを理解してもらえよう心掛けています。病名だけを告げて治療を進めることはしません」。

初診の際には、職業、家族構成、趣味、生活スタイルなどの聞き取りは欠かせないと言ふ古畑医師。それは重要なこととの間に「大事です」と断言。「整形外科に来る方の多くは、命にかかわる疾患というより、生活に支障をきたす痛みを抱えている方です。ですからその方が快適に暮らせることが治療の終結点といえます。そのために価値観や生活背景を把握しながら、今何に困っていて、治つたら何がしたいのか患者さんとゴールを共有します。そうすれば痛みを完全にゼロにすることが難しい場合でも、その方が望む生活の質を目指した治療を提示することができ

患者一人一人の「したいこと」を大切に

その人が望む暮らしのために

SAISEIKAI Omuta Hospital
SEASONAL REPORT
Special Issue

総合病院ならではの「多科連携」の強み

高齢者が多い現代の整形外科では、さまざまな職種が連携するチーム医療の重要性が高まっています。「特にリハビリ科のチームとは、患者さんについて日々の方針をよく話し合っています」。

リハビリについては入院・通院共に十分な期間を提案しているとのこと。自宅での生活に不安があると言ふ高齢の方には、入院でのリハビリ期間を長めにとっています。外来でも5カ月ほど通う方もいらっしゃいます。機能回復のためはもうなんですが、診てもらっている」と患者さんが安心感を得られることも、大きな意味があると思っています。それに理学療法士との交流も、高齢の患者さんにとって良い刺激になっているようです。確かにリハビリテーション科では患者さんとスタッフが和気あいあいとリハビリに臨む光景がよく見られます。「みなさん、なんだか楽しそうに通つてらっしゃいますよ」と古畑医師も笑顔。

「それから、内科の先生方にはすごく助けられています」。高齢の患者は整形外科の問題だけでなく、他の病気を抱えていることも少なくありません。手術後の肺炎や、心疾患がある人は心不全の発症、糖尿病であれば、血糖値のコントロールが不十分だと術後感染のリスクが高まります。そうした場合、各専

「痛みが取れた」その笑顔が原動力

最後に、整形外科医としてのやりがいを感じました。「患者さんの変化が分かることですね。歩けなかった方が散歩できるようになったり、腕が上がらなかつた方が自分でシャワーを浴びられるようになったり、改善が目に見えて分かることがうれしい。『痛みが楽になりました』と言ふ患者さんの笑顔は、ハードな業

門の内科医が迅速に治療にあたるそうです。それは、総合病院だからといって当たり前のことではないと古畑医師は語ります。

「快く引き受けてくださるので本当にありがたいです。整形外科は単体で成り立っているのではなく、他の先生方のサポートがあるからこそリスクの高い患者さんの手術にも対応できています」。